

京滋といえば、和牛の消費量の多さ、米産牛肉輸入再停止をどうとらえるか？

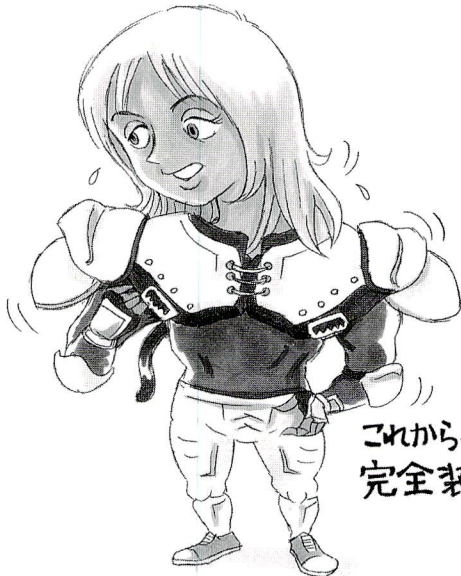
やっぺりました、アメリカが。アメリカ産牛肉の輸入が再開したとたんに、日本が指定した検査基準を満たしていない危険部位入り牛肉を日本に輸出、再びアメリカ産牛肉の輸入が中止された。さて、牛肉といえば、京滋の人は牛肉に対する思い入れが強い。昨年の本誌7月号でもご紹介したように、和牛の消費量については全国で上位を占めている。舞鶴では「肉ジャガ発祥の地」として町興しを行い、同じ主張をする呉市と張り合っている。確かに年末年始やお盆など、人が集まる機会が多い時期に牛肉店に列をなしている姿をよく見るし、「家族団圓ではすき焼きや焼き肉で」という人も多いだろう。京都にたまたま肉好きが多いのか、明治時代、京都がいち早く牛肉食に取り組んだために牛肉食の浸透度が高いのか…。調理法によって和牛、国産牛、輸入牛の向き不向きはあるが、アメリカ産牛肉が輸入停止になった今、この状況をポジティブにとらえ、地元産牛や和牛の消費に拍車がかかれれば、「地産地消」が進み、地域の活性化につながるはず。でも、鍋パーティにはくれぐれもご用心を…。

一番新しい日本のページ

いまだきよの歴史

卑怯者対策

団らんの食卓、鍋パーティといえば、その鍋すら凶悪犯罪の武器になる時代



これからの鍋は完全装備で

京都大学の学生で、元アメフト部員3人が、自宅マンションで鍋パーティを開き、女子大生を泥酔させて強姦した容疑で逮捕された。取り調べでは他のメンバーも加えて数回鍋パーティを実施していたらしく、府警は余罪についても追求している。この事件について周囲の数人に意見を聞いてみたが、「許せない」という意見に加え、「男性の自宅で一気飲みに応じて泥酔した女性にも認識の甘さがある」という意見も多かった。かつて関東の大学生が女性を泥酔させて集団暴行をした事件があったが、子供など弱者を標的にした犯罪と同様に暴行事件は明らかに100%加害者が悪い。しかし、それを完全に防ぐ策がないのも事実。男女同席で酒を飲む場には悪いヤツがいるというぐらいの前提で望んでもいいと思う。少なくとも人に酒をどんどん飲ませるヤツなんて、絶対に信用してはならない。「知り合いだから」「友達も一緒だから」というのは、なんら安全を保証するものではないぞ。

これが正しい鍋パーティ



京滋スポーツ界

スポーツといえば、京滋の快進撃!!
今年もアスリートの熱い戦いに釘付け

昨年末から年始にかけて、何かと関西のスポーツが盛り上がった。京都パープルサンガのJ1復帰&J2優勝を皮切りに、伏見工業高校の高校ラグビー制覇、滋賀県野洲高校の高校サッカー制覇など、次々と嬉しい知らせが舞い込んだ。特に野洲高の快進撃は我々の視線を釘付け。サッカー選手としてのキャリアがない監督が「ちょいワル、セクシーサッカー」をスローガンに掲げ、テクニク重視のサッカーで強豪を次々と撃破。伸び伸びと楽しい、しかも見る者を楽しませるプレーで、「必死さ」が魅力とされてきた高校スポーツに一石を投じた。知人は「あんなスタイル、高校サッカーやない！ いけすかん！」と息巻いていたが、チームのスタイルに対してとやかく言いたくなるのも、ある意味、高校サッカーが盛り上がっている証拠。春からさまざまな種目のスポーツが開幕するが、京滋のスポーツはどうか？ 京都パープルサンガはJ1でどう戦うのか？ 楽しみが山積みである。



ちよい不良セクシーサッカーフォ〜ッ!!



文◎大塚 祐希

京都で活動するライター集団・大塚祐希事務所CEO。昨年のイスラエル滞在以来、異文化を紹介するTEXTREAM PROJECTを始動。20カ国に及ぶ人々とネットワークを構築し、ボーダレスな活躍を目論む。
HP●<http://www1.ocn.ne.jp/tsukapon/>



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi>